

(まふ (MAFF)) は、農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です)

## 本誌のご案内

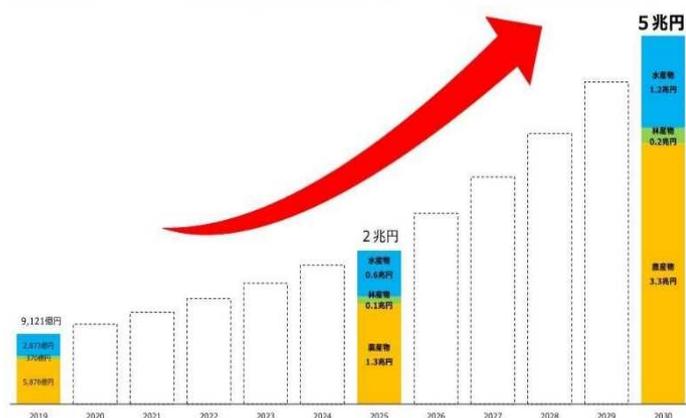


- 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略 ～2030年までに輸出額5兆円を目指す～
- スマート農業の現地視察を行いました！
- 令和3年産米等の作付意向について
- 「みどりの食料システム戦略」を策定しました
- 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝AWARD」(第8回選定)の募集開始！
- 統計情報(2020年農林業センサス確定値)-経営耕地面積規模別の農業経営体等の増減率-
- 農林漁業者の皆様へ マイナンバーカードはお持ちですか？

## 農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略

～2030年までに輸出額5兆円を目指す～

図-1 新たな農林水産物・食品の輸出目標



※農林水産物由来の新たな加工品及び少額貨物(1ロット20万円以下)を新たに輸出額のカウントに追加(上図の内訳には含まれない)

この目標を実現するため、昨年12月に策定した「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」において、海外で評価される日本の強みがあり、輸出拡大の余地が大きい27品目を輸出重点品目に選定しました。栃木県内からは、牛肉、いちご、日本酒が選ばれていますが、この他の品目であっても、「輸出に興味がある」、「これからやってみよう」という産地や事業者を支援することとしています。

★政府全体の輸出に関する情報はこちらをご覧ください。

[https://www.maff.go.jp/j/yusyutu\\_kokusai/index.html](https://www.maff.go.jp/j/yusyutu_kokusai/index.html)

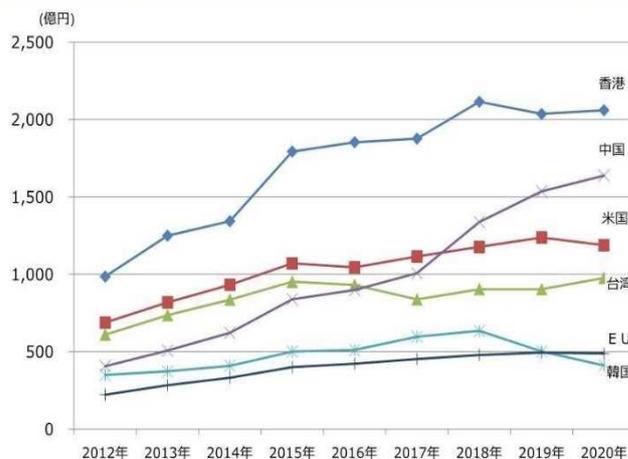


令和2(2020)年の農林水産物・食品の輸出額は9,860億円で対前年比107.0%となり、コロナ禍にあっても増加しています。

国内の「食」事情は、少子高齢化等の影響から市場規模は縮小傾向にある一方、海外は新興国の経済成長や人口増加等に伴い市場規模は拡大傾向にあることから、世界の食市場シェアを伸ばすことが国内の農林水産業や食品産業の発展につながります。

このため、食料・農業・農村基本計画(令和2年3月31日閣議決定)において2030年までに農林水産物・食品の輸出額を5兆円とする目標を設定しました。

図-2 国・地域別輸出額の推移



財務省「貿易統計」発表に農林水産省作成

## 農林水産省では7月1日に組織再編を行いました

農林水産省では、輸出の更なる拡大やそれを支える生産基盤の強化を図るとともに、持続可能な食料システムの構築等に向けた具体的政策を強力に推進するため組織再編を行いました。

★組織再編に係る大臣記者会見概要について、下記のURL又はQRコードからご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/press-conf/210625.html>



## スマート農業の現地視察を行いました！

スマート農業の導入は、作業の効率化やコロナ禍における作業員同士の接触回避等メリットがあるほか、新規就農のきっかけとなるなど注目を集めています。この度、栃木県拠点において、生産現場でのスマート農業機器の利用状況や導入による効果等を確認しました。

### 【視察先】

株式会社 秋本農園 代表取締役 秋本 則夫  
作業従事者：5名  
営農状況：水稻約50ha、二条大麦約12ha、野菜約1ha  
機器：ドローン（DJI AGRAS T20）  
作業内容：除草剤及び追肥の散布



### 【ドローンの性能】

- ・ 1つのバッテリーで約10分の飛行が可能で、充電は急速充電により約30分で完了。
- ・ 30分の水田1枚を約3分で散布（散布幅は6m）。
- ・ 散布ユニットを交換することにより、液剤や粒剤の散布が可能。

### 【効果・展望】

（当方）Q：ドローン導入による効果は？

（秋本農園）A： 従来は背負式散布機による作業で、1枚の水田に約30分掛かっていたところ、数分で作業が完了する。これにより、空いた少しの時間に散布が可能となり、作業効率化はもとより、かなりの労力軽減となっている。  
何より、若い職員が興味を持って生産活動に取り組んでいる状況が非常に嬉しい。



（当方）Q：今後のスマート農業機器の導入予定は？

（秋本農園）A： 現在、ドローンと直線キープ機能付田植機を所有している。担い手不足等により、今後、益々スマート農業の必要性が高まると考えており、優れた機能を有する機器があれば検討したい。  
問題は価格。国の補助事業等を活用出来ればと考えている。

（当方）Q：今後の抱負をお聞かせ下さい。

（秋本農園）A： スマート農業は労働力の効率と規模拡大の好循環作用を果たしている。また、若い生産者にとっては、大変な作業から解放され、意欲的に農業生産に取り組むことが出来ている。今後は、経営の健全化を目指し、引き続き経営耕地の規模拡大を図っていきたい。

農林水産省では、ICT・AI等を活用したスマート農業を推進しています。栃木県拠点においては、生産者の取組状況・課題等の把握や関連事業・支援策の周知に努め、一層のスマート農業の普及を図ることとしています。

スマート農業に関する導入事例や取り組みの紹介等を農林水産省HPによりご覧いただけます。下記のURL又はQRコードからご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/index.html>



### 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症が一刻も早く収束できるよう、感染リスクが高まる「5つの場面」に注意し、3密の回避、マスクの着用、手洗い等の徹底をお願いします。

★詳しくは下記のURL又はQRコードからご覧ください。

[https://www.maff.go.jp/j/saigai/n\\_coronavirus/index.html](https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/index.html)



# 令和3年産米等の作付意向について

令和3年産米等の作付意向（令和3年4月末現在）は、令和2年産の作付実績との比較による作付の増減を示したものです。栃木県では、主食用米は減少が見込まれており、また、米粉用米、飼料用米は増加が見込まれています。

しかしながら、主食用米はこれまでの作付参考値を上回る作付実績や、毎年需要が減少する中で新型コロナウイルス感染症の影響による消費減退も加わり、在庫が増えています。このままでは、需給と価格の安定が崩れ危機的な状況に陥りかねません。

米の需給バランスを維持するために、令和3年産米は、主食用米から飼料用米などの非主食用米や米以外の作物への更なる作付転換が待ったなしの状況となっています。

○主産県における令和3年産米等の作付意向について（第2回中間的取組状況（令和3年4月末現在））

都道府県	主食用米			戦略作物										備蓄米					
	2年産実績	3年産意向(対前年実績)		加工用米		新市場開拓用米(輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲		麦		大豆		2年産実績	3年産意向(対前年実績)
		4月末時点(今回公表)	1月末時点(前回公表)	2年産実績(ha)	3年産意向(対前年実績)	2年産実績(ha)	3年産意向(対前年実績)	2年産実績(ha)	3年産意向(対前年実績)	2年産実績(ha)	3年産意向(対前年実績)	2年産実績(ha)	3年産意向(対前年実績)	2年産実績(ha)	3年産意向(対前年実績)	2年産実績(ha)	3年産意向(対前年実績)		
全国計	136.6万			45,208	6,089	6,346	70,883	42,791	98,182	85,083							36,503		
北海道	95,300	↘↘	→	5,858	↗	635	↗	51	↘	1,865	↗	574	↗	33,616	↗	18,500	→	389	→
青森	38,300	↘↘	↘	821	↗	255	↗	5	↘	4,403	↗	666	→	598	↗	4,320	↗	5,865	↘
岩手	48,200	↘	↘	1,104	↗	244	↗	71	→	3,589	↗	1,758	↗	3,348	→	3,531	↗	687	↘
宮城	64,500	↘		707	↗	636	↗	145	↗	4,913	↗	2,070	↗	1,662	↗	9,171	→	2,319	↘
秋田	75,300	↘↘	↘	7,850	↗	289	↘	454	↘	1,574	↗	1,107	→	173		7,930	↗	3,689	↗
山形	56,500	↘	↘	3,895	↗	250	↗	128	↘	3,192	↗	930	↗	69	↗	4,562	→	3,877	↘
福島	59,200	↘↘	→	424	↗	41	↘	5	↗	4,933	↗	952	↗	300	↘	669	↗	5,568	↘
茨城	65,500	↘	→	1,351	↘	622	↘	37		7,886	↗	535	↗	4,317	→	427	↗	258	↗
栃木	54,900	↘↘↘	↘	1,912	↘	106	↘	811	↗	8,341	↗	1,614	↗	6,902	↗	295	↗	1,399	↗
千葉	52,500	↘	↘	1,438	↗	12	↘	72	↘	3,822	↗	933	→	454	↗	290	↗	1,391	↘
新潟	106,700	↘↘	↘	5,056	↗	1,134	↗	1,695	↗	1,876	↗	370	↗	171	↘	3,760	↗	4,731	↘
富山	33,200	↘	↘	1,007	↗	263	↗	120	↗	1,297	↗	449	↘	2,915	↗	3,513	↗	2,487	↘

(注1) 主食用米の「令和3年産意向(対前年実績)(1月末時点)」、戦略作物及び備蓄米の「3年産意向(対前年実績)」は、2年産実績と比較し、「↗:増加傾向」、「→:前年並み傾向」、「↘:減少傾向」で分類。  
 (注2) 主食用米の「令和3年産意向(対前年実績)(4月末時点)」は、2年産実績と比較し、「→:前年並み傾向」、「↘:1~3%程度減少傾向」、「↘↘:3~5%程度減少傾向」、「↘↘↘:5%超の減少傾向」で分類。  
 (注3) 主食用米の「2年産実績(ha)」は、2年12月統計部公表の主食用作付面積。  
 (注4) 加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の「2年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「2年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。  
 (注5) 備蓄米の「2年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

## 「みどりの食料システム戦略」を策定しました

農林水産省では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を策定しました。



「みどりの食料システム戦略」に関する詳しい情報は、下記のURL又はQRコードからご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>



## 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝AWARD」(第8回選定)の募集開始!

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」は、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより、地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るものです。このため、他の地域の参考となるような優れた地域活性化の取り組みを募集します。

応募期間：令和3年6月16日(水)～8月31日(火)

詳しくは下記のURL又はQRコードからご覧ください。

☆「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」特設Webサイト

<https://www.discovermuranotakara.com/>



# 統計情報（2020年農林業センサ確定値）

## 一経営耕地面積規模別の農業経営体等の増減率一

令和3年4月27日に「2020年農林業センサ結果の概要（確定値）」を公表しました。

⇒詳しくはこちら <https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noucen/index.html#y>



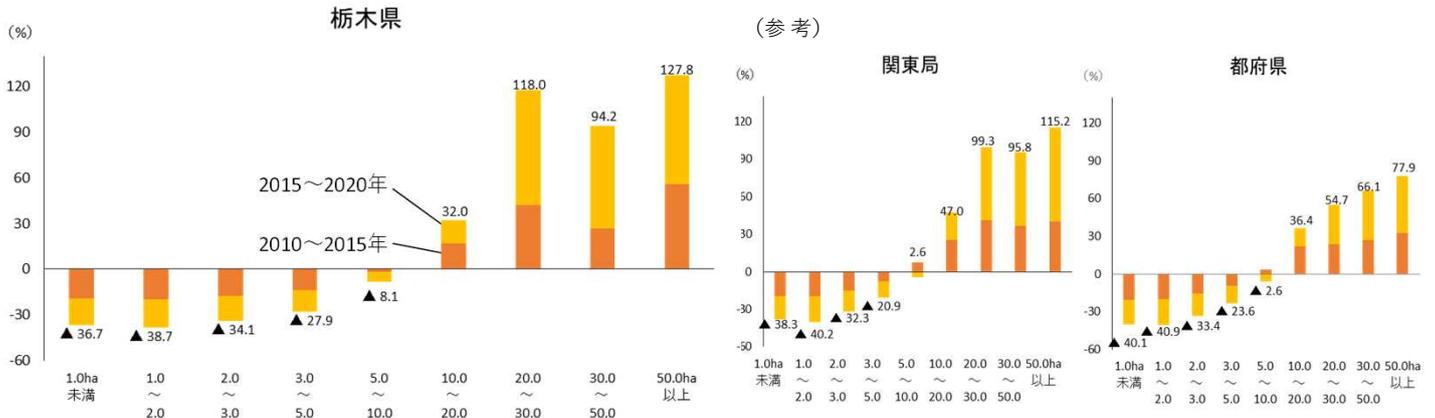
- 経営耕地面積規模別の農業経営体数は、10ha以上層で増加。
- 1農業経営体当たりの経営耕地面積は、2.9haのうち借入耕地が4割。

① 栃木県の農業経営体数は3万2,726経営体（令和2年2月1日現在）で、5年前に比べ19.1%（7,747経営体）減少し、10年前に比べ32.5%（1万5,737経営体）減少した。

	平成22年			増減率	
	経営体	経営体	経営体	令2/平22 %	令2/平27 %
<b>栃木県</b>	<b>48,463</b>	<b>40,473</b>	<b>32,726</b>	<b>▲ 32.5</b>	<b>▲ 19.1</b>
（参考） 関東局	401,893	331,919	261,876	▲ 34.8	▲ 21.1
都府県	1,632,535	1,336,552	1,040,667	▲ 36.3	▲ 22.1

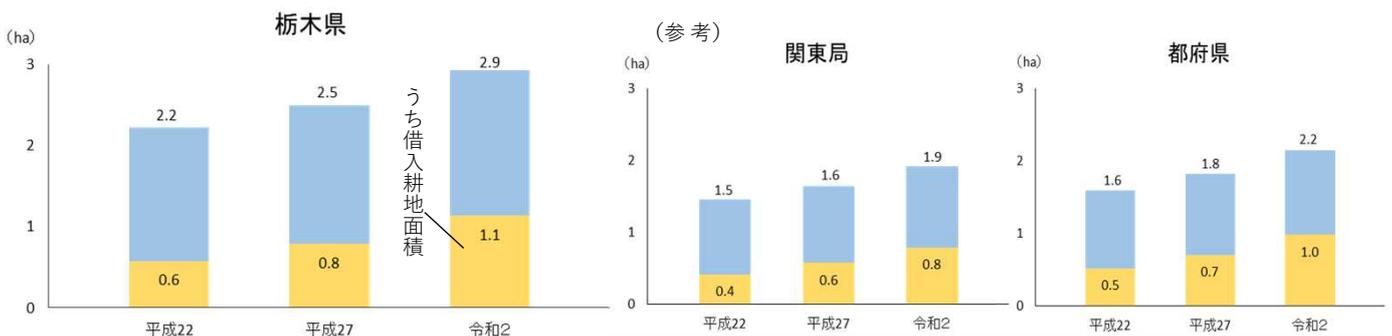
また、経営耕地面積規模別に農業経営体数の増減率をみると、10ha以上の各層で農業経営体数が増加し、経営耕地面積規模の小さい農業経営体ほど減少率が大きい傾向にある。

図-1 経営耕地面積規模別農業経営体数の推移



② 1経営体当たりの経営耕地面積は2.9haで、5年前に比べ0.4ha(16.0%)増加し、うち借入耕地が1.1ha(37.9%)を占めている。

図-2 1農業経営体当たりの経営耕地面積



## 農林漁業者の皆様へ マイナンバーカードはお持ちですか？

マイナンバーカードは、公的な本人確認書類となるなど、便利な機能があり、農林漁業者の皆様にとってもメリットがあるものです。農林水産省において、マイナンバーカードの取得促進に向けてYouTube動画「内閣官房に凸撃してみた。タガヤセキユウシュウ」を作成しました。

下記のURL又は右記のQRコードからご覧ください。

☆農林水産省「BUZZ MAFF」 <https://www.youtube.com/watch?v=KVU7oYrh1sA>



お問合せ先：農林水産省関東農政局栃木県拠点（栃木支局）地方参事官室

〒320-0806 栃木県宇都宮市中央2-1-16

TEL：028-633-3311（代表） FAX：028-634-0042

ホームページ：<http://www.maff.go.jp/kanto/chiikinet/tochigi/index.html>